

京都薬科大学概要

2026



**Kyoto
Pharmaceutical
University**

京都薬科大学は、1884（明治17）年、京都府御雇ドイツ人教師、ルドルフ・レーマン先生の薫陶を受けた教え子たちによって創立された京都私立独逸学校、特にその「別課学科（別科）」（のち薬学科）を礎石としています。その後、本学は1949（昭和24）年に京都薬科大学へと昇格しましたが、その建学の精神である「愛学躬行」は今に受け継がれています。本学では「愛学躬行」の“Philosophia et Praktikos”という言葉を入校ホール正面に掲げ、本学の建学の精神として永く伝えることとしています。

2024年に創立140周年を迎え、本学は創立以来、薬学の分野だけでなく産業〜社会に貢献することをモットーとしてきました。その核となるのは研究活動です。研究で得られた成果を社会に還元するとともに、その成果から見出された科学的知見、科学的思考を教育に活かすことで、さらに本学の教育・研究を発展させることができると考えています。この研究活動を重視した教育により、優れた人材を様々な分野に輩出しています。



理事長 木曾 誠一
学長 平田 収正

■建学の精神 愛学躬行 Philosophia et Praktikos

■教育理念

薬学部薬学科

本学は高度の教育及び学術研究機関として、薬学の教育及び研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

大学院薬学研究科

薬学の教育及び研究をより一層推進することにより、学術研究の高度化とともに、生命の尊重を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

■教育目的

薬学部薬学科

本学における教育は、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼ね備えた薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的とする。

大学院薬学研究科

高度な薬学の知識と研究能力を身につけ、基礎薬学系及び臨床薬学系の様々な薬学の分野で自立した研究活動を行うことができ、かつ、国際的貢献ができる有用な人材を育成する。

■京都薬科大学薬学部の3つの方針

ディプロマポリシー

京都薬科大学は、本学独自のカリキュラムにより所定の単位を修得し、次の5つの素養を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与します。

- DP1. 多様な医療関連分野において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を統合的に活用できる。（科学・技術）
- DP2. 問題発見・解決において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を基に思考・実証できる。（科学・技術）
- DP3. 生命を尊重する倫理観および幅広い教養を基に、社会の多様性に対応できる。（人間性）
- DP4. 薬学的知識・技術を基に多職種連携を担ううえで、他職種との協働に対応できる。（人間性）
- DP5. 自己及び他者と共に研鑽し続け、医療や情報・科学技術の進歩に対応する意欲と行動力を有している。（科学・技術・人間性）

薬剤師免許を取得した本学卒業生は、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れた薬剤師として、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、医療に関連する多様な領域において、新たな活力となることが期待されます。

カリキュラムポリシー

京都薬科大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの素養を学生が修得するために、以下の方針に基づいて体系的なカリキュラムを編成・実施しています。

初年次からの基礎的な知識・技術・態度の修得にはじまり、これらを統合して思考・表現する能力、さらには活用して行動する実践力を年次進行的に身につける系統的なカリキュラムを編成します。また、5つの各素養を身につけるための学修内容を授業科目群として体系化し、各授業科目に応じた到達目標・学修内容・評価方法を設定することによってカリキュラムを実施します。

CP1. 専門的知識・技能の養成 (DP1, DP2)

1・2年次での専門基礎科目及び4年次までの有機・天然物化学系、分析・物理化学系、生物化学系、医療薬学系の薬学専門講義・演習・実習を通して体系的に薬学を学ぶことにより、高度な専門的知識、統合的な思考力、技術、態度を身につける。

CP2. 研究的思考・実践力の養成 (DP1, DP2)

1・2年次での研究室体験や3年次後期からの分野での研究活動において最先端の研究に接することにより、課題発見・解決能力を養成する。また、5年次からは探求薬学コースあるいは実践薬学コースへのコース選択により、4年次までに培った統合的思考力と技術を基盤として専門性を深化させるとともに研究的実践能力を身につける。

CP3. 教養と倫理観を伴う人間性の醸成 (DP3)

初年次からの充実した教養教育および語学教育により、幅広い教養と視野を身につける。また、学年進行に伴った順次性・連続性のある医療倫理に係る科目群により、医療に関わる専門家としてのヒューマンイズムや倫理観を育む。

CP4. 社会における協働力の養成 (DP4)

初年次におけるアクティブラーニングを取り入れた少人数教育（早期体験学習、基礎演習）や他者との協働が必要となる演習・実習科目（薬学専門実習、実務事前演習、薬学研究）、さらには様々な専門性やニーズをもつ人々と接する実務実習を通して、実践的コミュニケーションやプレゼンテーション能力を高め、社会における様々な環境や職域で活躍できる能力を身につける。

CP5. 自己研鑽及び共に学ぶ姿勢の醸成 (DP5)

高学年次での実践的・科目横断的選択科目である薬学実践科目の履修を通して、日々進歩する医療や情報・科学技術に対応するために生涯にわたって自己研鑽する意欲と態度を養成する。また、薬学研究における分野等での研究活動や実務実習における医療現場での体験を通じて、自ら答を見つけることの大切さを理解するとともに、他者と共に研鑽し教えあう姿勢を身につける。

アドミッションポリシー

京都薬科大学は、「愛学躬行」を建学精神とし、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）を兼ね備え、医療・創薬・生命科学の発展に貢献できる薬剤師の養成を目指しています。入学者は本学の建学精神や教育理念・教育目的をよく理解し、薬学を学ぶことに強い熱意をもってディプロマ・ポリシーに掲げた5つの素養を身につけることが必要とされます。そのために以下の能力を備えた者を、各種選抜試験を通して選考します。

AP1. 薬学を学ぶ上で必要な基礎学力を有している。（知識・技能）

AP2. 論理的に思考・表現し、自らの考えを的確に他者に伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）

AP3. 自ら進んで物事の課題や問題点を考え、解決するために努力できる。（主体性）

AP4. 協調性を持ち、他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。（協働態度）

参考：カッコ内の語句は以下の「学力の三要素」である。

1. 知識・技能

2. 思考力・判断力・表現力等の能力

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜試験実施方針については本学公式 Web サイトをご覧ください

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/education/pharm/>



基本データ

■ 創立案 1884 年

■ 設置者 学校法人京都薬科大学

■ 外部評価

■ 名称 京都薬科大学

■ 所在地 京都府京都市山科区御陵中内町 5

○機関別認証評価（根拠規程：学校教育法）

各大学が大学全体（学部・研究科等）の点検・改善を継続的に行うことを促すために実施されています。本学では（公財）大学基準協会による認証評価を受審しており、その評価結果は次のとおりです。

評 価：適合（2023 年 3 月認定）

認定期間：2023 年 4 月 1 日～2030 年 3 月 31 日

○薬学教育評価（第三者評価：受審は任意）

（一社）薬学教育評価機構が行う評価事業で、2006 年度にスタートした学部 6 年制薬学教育プログラムの点検・改善を継続的に行うことを促すために実施されています。本学の評価結果は次のとおりです。

評 価：適合（2023 年 3 月認定）

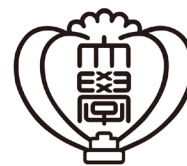
認定期間：2023 年 4 月 1 日～2030 年 3 月 31 日

■校章の由来

ギリシャ神話に、Kolchis 国の Hekate の娘 Medea とその使徒達 Pharmakides が薬草をもって神に奉仕していたという物語があります。この故事により、薬品を Medicus と言い、薬学を Pharmazie と呼ぶようになりました。薬草のケシ（Papaver somniferum Linne, Opium, Poppy）は地中海の沿岸、小アジア、イラン地方の原産であり、その未熟果実より採取されるアヘンは、古く止しや薬として、またアルコール抽出物は鎮痛・鎮静・催眠薬として服用されていました。

1805 年頃、ドイツの薬剤師 Serturner がアヘンよりモルヒネを抽出し、純粋な結晶として単離しました。このモルヒネもまたギリシャ神話に登場する“夢の神 - Morpheus -”に因んで命名されました。このモルヒネは強力な鎮痛作用を有することが判明し、現在【クスリの王様】と呼ばれ、医療の場において絶大な効力を示しています。また、アヘンはコデイン、ノスカピン、パペリン等のアルカロイドも含み、それらの成分もまた強力な鎮咳・鎮痙薬として使用されています。

本学の校章は、Pharmazie の Ph の文字をギリシャ文字 Φ に置き換え、それにケシの果実を配し、図案化したものです。本学はこの校章のもとに、人類の健康に寄与する“クスリ”というものを深く究明し、優れた薬学士、薬学者および薬剤師の養成に努めています。



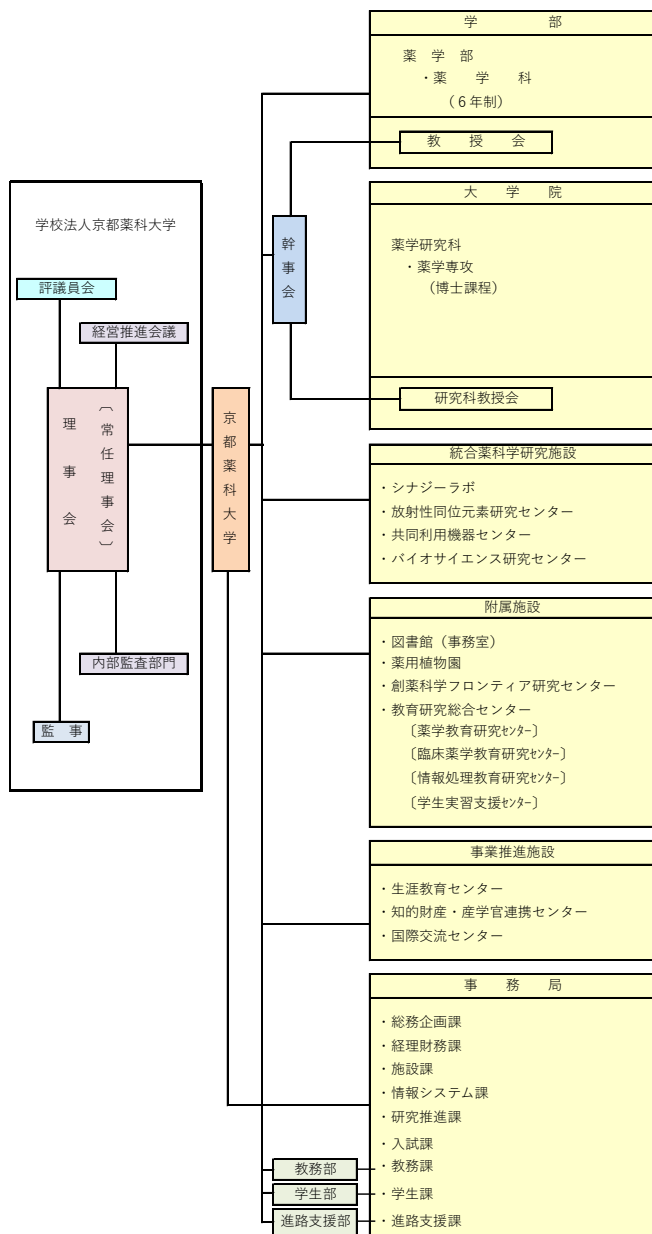
■沿革

1884	ドイツ人ルドルフ・レーマン博士に学んだ人々が協力して上京区（現在は中京区）富小路夷川下ルに京都私立独逸学校を創立 後に別科として薬学科を開設
1889	校舎を上京区（現在は中京区）河原町三条上ルに移し、医学予備校を併置
1892	薬学科を廃し、私立京都薬学校を設立
1898	上京区（現在は左京区）夷川通川端東入ル秋築町に移転
1902	医学予備校を廃止
1919	専門学校令により京都薬学専門学校を設立 私立京都薬学校を廃止
1932	東山区（現在は山科区）山科御陵中内町に校舎（本館・1号館－2000年5月解体、2号館－2008年3月解体）を新築し移転
1949	学校教育法により「京都薬科大学」が認可
1952	京都薬学専門学校を廃止
1956	東山区（現在は山科区）山科御陵中筋町に運動場を建設
1959	図書館建設（2010年6月解体）
1962	薬学部製薬化学科増設
1964	創立80周年記念事業の一環として2ヶ年計画で校舎の増改築を実施 1965年5号館建設（2006年2月解体） 1966年4号館建設（2006年1月解体）、 6号館建設（2010年6月解体）
1965	大学院薬学研究科修士課程設置
1968	伏見区日野林に薬用植物園移転拡充
1970	中央動物研究施設（動物研究センター）新築（2013年9月解体）
1971	山科区御陵四丁野町（本校地より南約50m）に新校地を購入
1972	中央講堂兼体育館建設（2014年5月解体）
1973	南校舎（教養課程）建設（2012年2月解体） 薬学部生物薬学科増設 3学科制となる 実習研究棟（現育心館）建設
1974	図書館書庫増築（2010年6月解体）
1976	製薬化学科、生物薬学科の入学定員増員。
1977	大学院薬学研究科博士後期課程設置
1979	放射性同位元素研究センター建設（2007年12月解体）
1981	大学ホール建設（2008年3月解体） 中央動物研究施設（動物研究センター）改築（2013年9月解体）

1983	北西校舎（現教育研究総合センター）新築
1984	創立100周年
1985	滋賀県滋賀郡志賀町に蓬萊セミナーハウス建設（2008年3月売却）
1986	山科区御陵四丁野町（南校舎隣接地）に新校地を購入 テニスコート新設
1988	生命薬学研究所（現S棟）新築
1993	大学院薬学研究科修士課程入学定員増員
1994	創立110周年
1995	大学入試センター試験導入
1997	臨床薬学研修センター、情報処理センターの設置
1999	大学院修士課程に臨床薬学専攻設置 創薬科学フロンティア研究センター新築
2001	学生会館 Pavot（パボ）新築
2003	愛学館（前期）新築 愛学館3階に愛学ホール完成
2004	創立120周年
2005	愛学館（後期）新築 薬学6年制課程学生募集開始、 薬学4年制課程学生募集停止
2006	薬学6年制課程設置
2007	S棟改修および放射性同位元素研究センター移転 臨床薬学教育研究センター新築
2010	躬行館新築 育心館改修 大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程設置
2011	中央庭園建設、奏楽館建設 薬用植物園御陵園完成 生涯教育センター設置
2012	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程および薬科学専攻 博士後期課程設置
2013	バイオサイエンス研究センター建設
2014	創立130周年、南風館建設、南校地整備（部室棟、警備員室、外構等）
2015	創立130周年記念館（中央講堂兼体育館）建設
2017	愛学躬行歴史資料室設置
2018	新たな資料の発見に伴う創立記念日の変更（4月15日から4月27日に変更）
2020	新型コロナウイルス感染症対策としてPCR検査室開設、 沿革講義収録システムの整備等
2024	創立140周年
2025	大学院薬科学専攻博士前期課程廃止 飛翔館新築

■ 組織図

2026年4月1日現在



■ 研究室・附属施設

創薬科学系	薬化学／薬品製造学／薬品化学／生薬学
分析薬科学系	薬品分析学／代謝分析学／薬品物理化学
生命薬科学系	衛生化学／公衆衛生学／微生物・感染制御学／細胞生物学／生化学／病態生理学
病態薬科学系	病態生化学／薬物治療学／臨床薬理学／薬理学／分子腫瘍学
医療薬科学系	薬剤学／薬物動態学／臨床薬学／臨床薬剤疫学
基礎科学系	健康科学／物理学／数学／一般教育／薬学英语
薬学教育系	薬学教育研究センター／臨床薬学教育研究センター／情報処理教育研究センター／学生実習支援センター
統合薬科学研究施設	シナジーラボ／放射性同位元素研究センター／共同利用機器センター／バイオサイエンス研究センター
附属施設	図書館／薬用植物園／薬用植物園御陵園／創薬科学フロンティア研究センター／生涯教育センター／知的財産・産学官連携センター／国際交流センター

■ 学生数 (2026年5月1日現在)

区分		年次	定員	現員	男	女
学部 (6 年制)		1 年次	360	381	89	292
		2 年次	360	398	109	289
		3 年次	360	365	91	274
		4 年次	360	442	118	324
		5 年次	360	380	95	285
		6 年次	360	372	106	266
		計		2,160	2,338	608
大学院	薬学専攻 博士課程	1 年次	10	8	5	3
		2 年次	10	7	2	5
		3 年次	10	9	5	4
		4 年次	10	9	6	3
	計		40	33	18	15
合計			2,200	2,371	626	1,745

■ 教員組織 (2026年5月1日現在)

学部	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
薬学部	33	6	12	4	7	3	18	12	1	1	71	26	97

教育

学部

本学では、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼ね備えた薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的に、2006年度から6年制薬学部を設置しました。

学部では、継続的な教養教育と早期の専門教育により、豊かな人間性を育みながら高度な知識・技術・態度を修得するための体系的カリキュラムを設けています。特に、3年次後期から始まる「課題探究型」の研究活動は本学カリキュラムの特長の1つであり、科学を基盤とした問題発見・解決能力を培うことによって、あらゆる分野の最前線で活躍するための土台を築いています。

また、通常カリキュラムとは別に、超高齢社会や地域医療、グローバル化など多様な社会のニーズに応える人材育成を目指し、個人の希望に合わせて選択可能な各種プログラムも実施しています。

■薬剤師国家試験に対する取り組み

「薬剤師免許は必ず取得する。ただそれは最終目的ではない、通過点である。」これは本学が薬剤師国家試験に関する教育に取り組むうえで大切にしてきた考えです。本学では1年次から6年次までの講義において、薬剤師国家試験レベルの知識を伝えることに加え、ファーマシスト・サイエンティストに求められる「もう1段階上」の能力を醸成することを重視してきました。本学では、6年間の教育を通して学生に「薬学を考え抜く力」を身につけさせるとともに、その学びを総括する高学年次プログラムで薬剤師国家試験に対する充実した取り組みを展開しています。

本学では高学年次に薬学の学びを総括する科目として「症例・処方解析演習」や「アドバンスト薬学」を設けています。これらの科目はそれぞれ薬学共用試験（CBT）や薬剤師国家試験の対策だけを目的とした科目ではなく、これまで学んできた様々な科目を振り返り、関連させることを目的とした科目です。本学では、科目を関連させるために大切な薬学における基礎力である「物理」「化学」「生物」をまず徹底的に強化し、薬学を総括するうえでの土台をしっかりと固めます。その上で、薬学の応用科目を振り返り、関連させることで「生きた薬学」として学生に定着させることを可能としています。このような教育が学生の「薬学を考え抜く力」を育て、ひいては薬剤師国家試験にも強い学生を育てることにつながります。

合同多職種連携教育（IPE）

本学では多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成の一環として、京都橘大学と合同で多職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）を行っています。このプログラムでは異なる医療教育を受けている学生たちが垣根を越えて学び、話し合うことを通して、それぞれの職種の強みや弱みを知り、チーム医療への貢献を理解することを目的として2016年度より開催しています。

同じシナリオ事例を用いて異なる学科に所属する学生がそれぞれ学んできた専門知識を駆使して最適の医療について共に考え、グループ発表を行うことで、チーム医療の有効性と共通の目標（アウトカム）を設定する難しさについてより深く考える機会としています。

本プログラムは、実際の医療現場において、患者のための治療・ケアの提案ができる実質的な力を身につけるモデルケースとなりうるものと考えます。チーム医療を実践的に学ぶ機会として今後もプログラムの充実を図り、より専門性と実践能力の高い人材を育成し、地域医療への貢献を目指していきます。

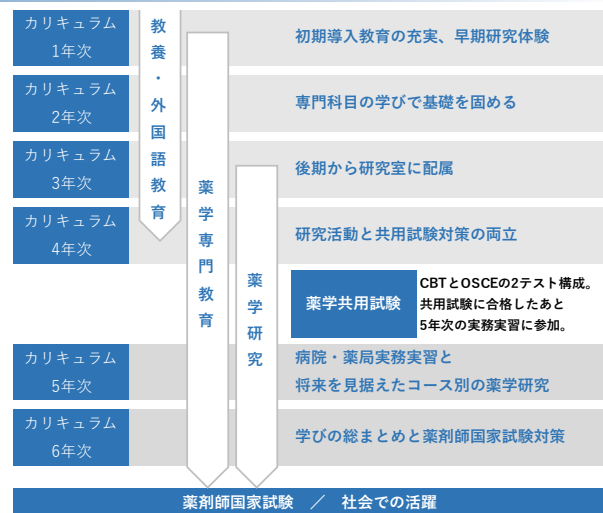
在宅医療研修プログラム

全国の薬科大学に先立ち、本学では医療法人社団都会渡辺西賀茂診療所とゆう薬局グループの協力のもと、在宅チーム医療研修として、2016年度から学部5年次生を対象にした「在宅医療研修アドバンストプログラム」を実施しています。

学部生の「在宅医療研修アドバンストプログラム」では、2週間で在宅医療に関わる基礎知識や医療倫理、緩和医療等に関する講義を受講しながら、訪問医と同行する訪問診療、訪問看護師と同行する訪問看護及び訪問薬剤師と同行する訪問薬剤管理指導などの在宅実習を行います。

早期ラボ体験

1～2年次生の自由科目として、研究室での研究活動が体験できます。開講期間は1年次後期～2年次前期となっており、最先端の研究に低年次から触れることで、研究に必要な知識・スキルの基盤や研究マインドを身につけるだけでなく、薬学を学ぶ楽しさや意義を再確認する機会となっています。



※新カリキュラム（2024年度入学生から適用）

薬剤師国家試験合格率 89.61%
(2026年3月卒業生)

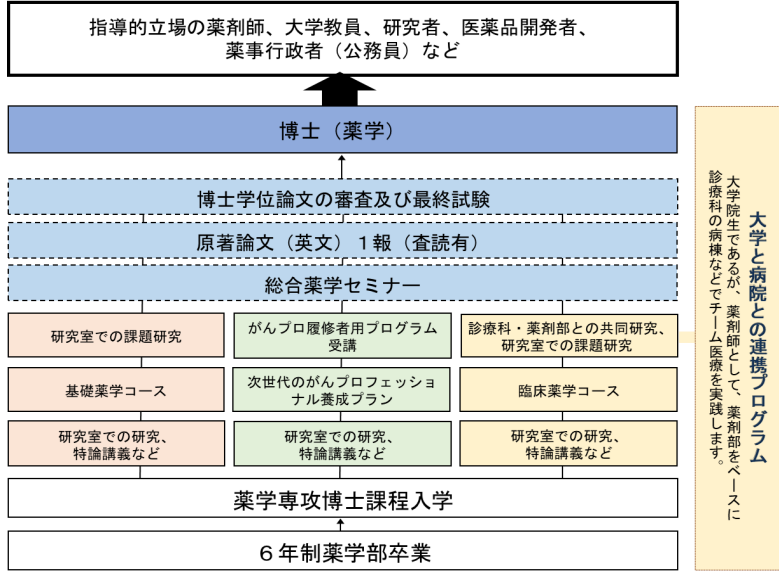


大学院

薬学のエキスパートをめざして、さらなる「研究」のステージへ

薬学の広い分野を学んだ後、さらに特定領域のエキスパートを目指す大学院。本学では、基礎および臨床薬学に関する高度な学識と研究能力を有した指導的な臨床薬剤師あるいは国際的に活躍できる基礎および臨床薬学研究者を養成する薬学専攻博士課程（４年）を設置しています

薬学専攻博士課程の全体図



「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」では、「がん患者の QOL 向上および終末期医療を担う人材養成コース」および「近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース」を設置し、患者さんのライフステージに応じたテーラーメイド医療を実践できる薬剤師・創薬研究者の養成と、近未来の治療に対して指導的立場となる薬剤師や医薬品を開発できる薬剤師の育成を目指しています。

研究

本学は、社会の課題解決を目指した様々な教育研究プロジェクトや、各分野・センターでの研究活動を行っています。「なぜ京都薬科大学では、薬剤師になるための学修に加えて研究にも力を入れているのか？」という疑問を持たれるかもしれません。学校教育法第 83 条は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と規定しています。つまり、大学にとって“教育”と“研究”は必須の活動であり、本学のような「医療系」の大学にもそれは当てはまります。

本学では、学長のリーダーシップのもと、「研究活動により得られた研究成果（知見・科学的思考を含む）を教育活動に還元してこそ研究活動の意義がある」として、研究活動を積極的に推進してきた経緯があります。2020 年には、本学が目指す研究活動の指針として、8 項目からなる「京都薬科大学研究ポリシー」を制定しました。本学の研究活動に対する考え方は、本ポリシーの「4. 研究の教育への反映」として盛り込んでいます。

今後も本学は、建学の精神「愛学躬行」に則り、薬学領域において常に“最先端”で本学の“オリジナリティー”を打ち出した学術研究を推進します。

科学研究費助成事業
(科学研究費補助金／学術研究助成基金助成金) ※1

制度	種目	区分	人数	助成額 (千円)
科学研究費補助金	学術変革領域 (B)	継続	1	11,700
学術研究助成基金助成金	基盤研究 (B)	継続	6	25,480
		新規	13	23,660
	基盤研究 (C)	継続	20	26,780
		新規	4	6,240
	若手研究	継続	4	6,240
		新規	1	3,770
	挑戦的研究 (萌芽)	継続	1	2,210
		新規	1	600
	特別研究員奨励費	継続	1	1,000
		新規	1	600
	研究活動スタート支援	継続	1	1,000
		新規	2	2,470
合	計		50	103,910

日本学術振興会特別研究員の採用

年度	2022	2023	2024	2025	2026
新規採用者数	1	2	1	1	1

2025 年度※2 研究助成寄付金の受け入れ件数及び金額

件数	金額 (円)
18	35,532,631

※2：※入金日を基準とする

※1：2025 年 4 月 1 日時点在籍の研究代表者が対象。
同年 3 月 31 日退職者の新規採択分および前年度からの延長・繰越分は除く。

学生支援

本学では学生生活を支援するため、奨学金制度を設けています。 ※ 2026 年度以降の入学生対象

学業奨励型制度

■特待生授業料減免

○減免額

100 万円（奨学金併給あり）

○対象者

・1 年次

一般選抜及び共通テスト利用方式の入試成績上位者 10 名程度（対象者は、自動的に成績優秀者奨学生とみなします。）

・2 ～ 5 年次

特待生として入学し、標準修業年限内の卒業が見込まれる者であって、前年次の成績が上位 20 位以内かつ、得点率が 9 割以上の者

・6 年次

特待生として入学し、標準修業年限内の卒業が見込まれる者であって、1 年次から 5 年次の総合成績が上位 20 位以内かつ、得点率が 9 割以上の者

注）当減免は、高等教育の修学支援新制度に係る減免と併せて支援を受けることができます。

成績優秀者奨学金との併給により、
総額 140 万円の支援となります！

■成績優秀者奨学金

○対象者

・1 年次

特待生入学者

・2 ～ 5 年次

前年度及び当該年度に進級した者であって、前年次の成績が上位 60 位以内かつ、得点率が 9 割以上の者

・6 年次

標準修業年限内の卒業が見込まれる者であって、1 年次から 5 年次の総合成績が上位 60 位以内かつ、得点率が 9 割以上の者

○給付額

・1 年次（特待生） 40 万円

・2 ～ 6 年次 1 位～ 20 位 40 万円

21 位～ 40 位 30 万円

41 位～ 60 位 20 万円

経済支援型制度

■高等教育の修学支援新制度

本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象校です。当制度に採用された方は、その支援区分に応じ、日本学生支援機構からの給付奨学金、大学の授業料等減免を受けることができます。

※申請資格や要件、金額等については、日本学生支援機構ホームページをご確認ください。

■日本学生支援機構貸与奨学金

日本学生支援機構では、経済的事由で修学が困難な優れた学生に対して、学資の貸与を行っています。

※申請資格や要件、金額等については、日本学生支援機構ホームページをご確認ください。

■その他の制度

・国の教育ローン（日本政策金融公庫）

・大学独自の授業料減免（家計急変）

本学に入学後、主たる家計支持者の死亡、失業等により授業料の納付が困難となり、かつ、「高等教育の修学支援新制度」の対象外である者は、本学独自の授業料減免を申請することができます。

※詳細は本学公式 Web サイトよりご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/campuslife/scholarship.html>



学術交流・連携

本学では様々な大学や医療機関等と協定を締結しており、以下にその一部をご紹介します。

医療法人社団 都会／株式会社ゆうホールディングス

日々在宅医療の現場で尽力されている「診療所（地域医療機関）」「薬局」との包括的な連携のもと、三者で「相互の学術交流」「疫学研究の推進および研究成果の地域医療への還元」「医療活動・教育研究活動に資する人材育成」に取り組めます。

京都 4 大学連携機構

本学と京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学、の 4 大学は「ヘルスサイエンス系の教育研究の連携に関する協定」を締結し、京都 4 大学連携機構を設置しました。また、ヘルスサイエンス分野における教育研究を推進する「京都ヘルスサイエンス総合研究センター」が設置されました。センターでは各大学の教員交流を深めつつ、研究テーマを設定。そこに学生が参画することで、京都の健康づくりに貢献するとともに、世界で通用する次世代研究者の育成に取り組んでいます。

京都女子大学

京都女子大学が 2023 年 4 月に開設したデータサイエンス学部では、社会の多様な課題を発見する感性や、適切なデータを収集・分析・活用するスキルの醸成を目指しています。一方、本学では、これまでの教育研究の成果を基盤に、今後ますます広がるデジタル医療への対応・進展を目指しており、両大学の連携によって「データサイエンス×医療・薬学」を切り口に、より多様かつ社会課題の解決につながる教育・研究を進めていきたいと考えています。

京都橘大学

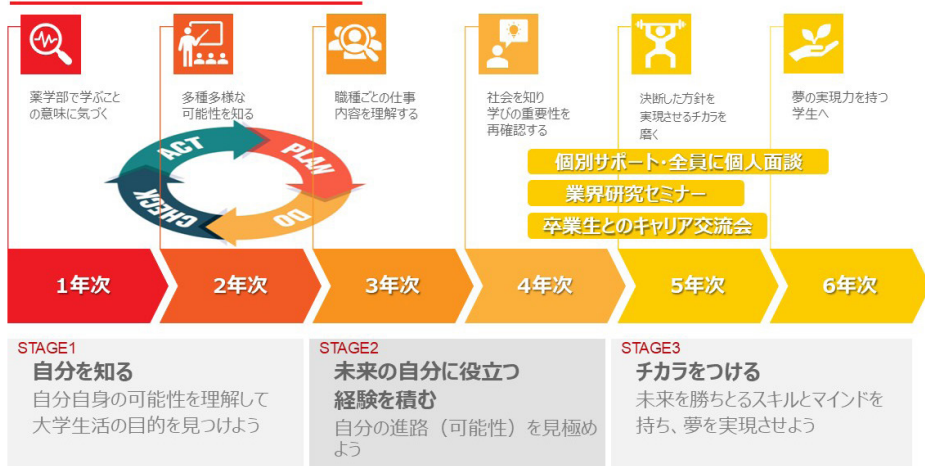
京都橘大学と本学は 2016 年度から共同で実施してきた多職種連携教育を主軸に、両大学がさらに地域に向き合って課題を解決していく姿勢をより強くするとともに、両大学の取り組みの成果を積極的に社会に発信し、日本全国の地域が抱える課題を解決するモデルを京都の地「山科」から提案していきたいと考えています。

就職

■ キャリア支援プログラム

1、2年次をSTAGE1『自分を知る』、3、4年次をSTAGE2『未来の自分に役立つ経験を積む』、5、6年次をSTAGE3『チカラをつける』とし、各学年のレベルやニーズに応じた「キャリア支援プログラム」を経て、夢の実現力を持つ学生を目指します。

キャリア支援プログラム



■ 就職先一覧（2025年度）

製薬企業 あすか製薬／アステラス製薬／アッヴィ合同／エーザイ／MSD／大塚製薬／科研製薬／キッセイ薬品工業／協和キリン／クラシエ／興和／参天製薬／JCRファーマ／塩野義製薬／第一三共／大同薬品工業／大鵬薬品工業／中外製薬／中外製薬工業／中外臨床研究センター／東和薬品／日本イーライリリー／日本新薬／ファイザー／ Bristol・マイヤーズスクイブ／マルホ／Meiji Seika ファルマ／森下仁丹／ルート製薬

その他企業 アース製薬／医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団（PMRJ）／NTTドコモ／カネカ／キャタラー／合同会社デトロイトトーマツ／小林製薬／再春館製薬／サンスター／資生堂／双日／タカラバイオ／テルモ／東海北陸ブロック血液センター／ニプロ／日本ハム／ピアス／メディックメディア／ワイエムシィ

CRO・SMO IQVIA サービシズジャパン／ICON クリニカルリサーチ／イーピーエス／シミック／シミックファーマサイエンス／シミックヘルスケア・インスティテュート／新日本科学PPD／メドベイス・ジャパン

大学病院（レジデントを含む） 大阪公立大学医学部附属病院／大阪大学医学部附属病院／関西医科大学附属病院／京都大学医学部附属病院／京都府立医科大学附属病院／滋賀医科大学医学部附属病院／聖路加国際大学病院／奈良県立医科大学附属病院／浜松医科大学医学部附属病院

病院 愛仁会／愛染橋病院／生駒市立病院／宇治おうばく病院／淡海医療センター／大垣市民病院／大阪回生病院／大阪府済生会吹田病院／大阪府済生会中津病院／大阪ろうさい病院／大津赤十字病院／岡崎市民病院／岡山済生会病院／鹿児島共済会南風病院／関西電力病院／北大阪ほうせんか病院／北野病院／岐阜県総合医療センター／協仁会小松病院／京都岡本記念病院／京都桂病院／京都済生会病院／京都市立病院機構／京都第一赤十字病院／熊本ろうさい病院／KKR横須賀共済病院／厚生連尾道総合病院／厚生連高岡病院／厚生連屋島総合病院／甲南会（兵庫県）／神戸市立医療センター中央市民病院／国立病院機構近畿グループ／済生会滋賀県病院／市立池田病院／市立奈良病院／市立東大阪医療センター／市立ひらかた病院／吹田徳洲会総合病院／珠洲市総合病院／住友病院／武田病院グループ／東京西徳洲会病院／富山県立中央病院／日本赤十字社和歌山医療センター／彦根市立病院／広島市立病院機構／三菱京都病院／みどりヶ丘病院／八尾徳洲会総合病院／大和病院／淀川キリスト教病院／洛和会ヘルスケアシステム

薬局 アイセイ薬局／アインファーマシーズ／エスマイル／関西メディコ／かんまき薬局／クオール／サンブラザ薬局／すずらん薬局／総合メディカル／なの花薬局（奈良）／日本調剤／ファーマライズ／フロンティア／マイライフ／メディカルシステムネットワーク／なの花薬局／ゆう薬局／ユニスマイル

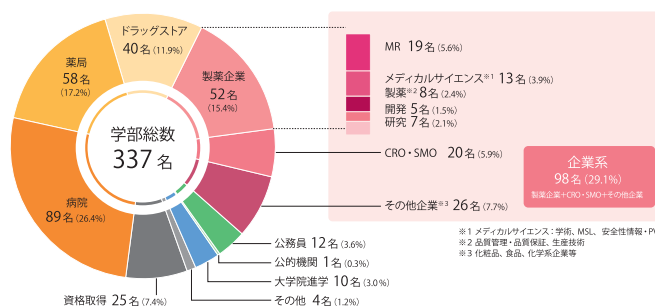
ドラッグストア アカバ／イオンリテール／ウエルシア薬局／クスリのアオキ／コスモス薬品／サンドラッグ／スギ薬局／トモズ／富士薬品／マツキヨ／ココカラ＆カンパニー／ユタカファーマシー

地方公務員 大阪市／京都市／京都府／高槻市／浜松市／兵庫県

公的機関 国立研究開発法人 産業技術総合研究所

進学 京都薬科大学大学院

他大学進学 大阪大学大学院医学系研究科／京都大学大学院医学研究科／京都大学大学院医学研究科／京都大学大学院医学研究科／神戸大学大学院医学系研究科



生涯教育

■ 京都薬科大学 履修証明プログラム Lehmann プログラム（専門・認定薬剤師資格 取得支援）

医療の高度化や多様化、地域医療の推進などを背景に、薬剤師に求められる役割は変化し、質の高い薬学的管理や高度な専門性の習得が求められています。各専門領域において質の高い業務に従事することが期待される、学会などが認定する「専門・認定薬剤師」資格を取得するためには、実務経験に加え、論文や症例報告書の作成が課せられています。しかし、論文や症例報告書の作成指導を専門的に受けられる機会が限られているため、資格取得を断念する薬剤師も一定数存在するのが現状です。本プログラムは、このような課題の解決に向け、専門・認定薬剤師資格取得をサポートするため、科学を基盤とした学び直しの機会を提供し、円滑な医療推進、健康維持に貢献することを目指した社会人向けの年間カリキュラムとして展開します。

コース	内容
症例報告書作成コース	薬学的視点に基づいた症例解析や症例報告書の作成技能を学ぶ。
研究計画・実践コース	適切な研究計画を立て、実践する技能と、研究成果を学会等で発表する方法を学ぶ。
論文作成コース	論文作成の基礎を理解し、わかりやすい論文を執筆できる技能を学ぶ。

【少人数制教育】

- ・2、3名につき1名の指導教員
- ・演習によるきめ細やかな指導

【医療統計・ICT・リーダー育成科目】

- ・専門科目だけでなくリーダーに求められる素養を身につける

【リーダーを目指す薬剤師コミュニティ】

- ・受講生および修了生が参加するコミュニティの設置

■ 生涯研修プログラム

本学の生涯研修プログラムは、薬剤師に必要な最新の知識と実践スキルを身につけるための様々な研修を提供することにより、自己研鑽を志す全ての薬剤師を支援し、ひいては医療の質向上に貢献することを目的としています。

また本学は、公益社団法人薬剤師認定認証機構（CPC）から認定薬剤師認証機関（G24）として認証されており、在学生や卒業生に留まらず、全国の薬剤師を対象とした生涯研修認定薬剤師制度として、生涯研修プログラムを展開しています。

プログラム	概要
卒後教育講座	薬学的専門性を磨き、患者への薬学的介入を実践するための幅広い知識を習得する講座
臨床推論ステップアップ講座	フィジカルアセスメントを活用した薬剤師による臨床推論アプローチを学び、多職種連携チーム医療の中での薬剤師の「介入」までを考える講座 医師の臨床推論の思考過程を学ぶ＜入門編＞と、全身モデルを使用しバイタルサイン情報収集から臨床推論を行う＜実践編＞を開講
アカデミックスキル基礎講座	薬剤師のスキルアップの基盤となる、症例報告の書き方、情報検索方法、データのまとめ方等のスキルを習得する講座
実務支援セミナー	知識連携薬局の認定要件である無菌製剤処理を、在宅医療に焦点を当てて、基礎理論から手技まで学べる実習セミナー
eラーニング講座	卒後教育講座と漢方関連講義を、時間や場所に縛られずに受講できる配信型の講座

財務情報

京都薬科大学は発行体格付「AA－（ダブルAマイナス）／安定的」を取得しています

本学は、株式会社格付投資情報センター（R＆I）による格付「AA－（ダブルAマイナス）」を2004年度以降継続して取得しており、2025年度も同格付を維持しました。薬学部の人気低迷が課題として健在する中、薬剤師国家試験の高い合格率や、私立大学薬学部においてトップクラスの就職率を維持していることなどが評価され、引続き「AA－」を維持しています。

「AA－」は、21段階に区分されている格付順位の上から4番目であり、単科大学としては、極めて高い水準にあるといえます。

■法人会計決算の概要（2025年度）

○資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度に行った諸活動に対応するすべての資金の動き（収入と支出の内容）を表すものです。

(単位 千円)				
	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,340,100	4,395,495	△ 55,395
	手数料収入	72,900	64,818	8,081
	寄付金収入	41,000	52,698	△ 11,698
	補助金収入	513,500	662,810	△ 149,310
	資産売却収入	1,169,100	2,619,213	△ 1,450,113
	付随事業・収益事業収入	46,300	33,822	12,477
	受取利息・配当金収入	195,700	216,256	△ 20,556
	雑収入	105,100	173,262	△ 68,162
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	568,300	557,171	11,128
	その他の収入	7,165,200	10,378,705	△ 3,213,505
	資金収入調整勘定	△ 705,600	△ 715,671	10,071
支出の部	前年度繰越支払資金	4,016,300	4,244,563	
	収入の部合計	17,527,900	22,683,144	△ 5,155,244
	人件費支出	1,982,300	1,965,607	16,692
	教育研究経費支出	1,888,900	1,948,796	△ 59,896
	管理経費支出	477,900	398,164	79,735
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	3,094,700	3,278,457	△ 183,757
	設備関係支出	538,400	383,836	154,563
	資産運用支出	4,375,300	9,630,608	△ 5,255,308
	その他の支出	980,200	1,002,152	△ 21,952
	予備費	50,000		50,000
	資金支出調整勘定	△ 355,700	△ 680,861	325,161
	翌年度繰越支払資金	4,495,900	4,756,382	△ 260,482
	支出の部合計	17,527,900	22,683,144	△ 5,155,244

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

○貸借対照表

貸借対照表は、決算時における資産、負債、基本金及び収支差額を把握するもので、教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認するためのものです。

(単位：千円)				
	科 目	本年度末	前年度末	増減
資産の部	固定資産	35,511,922	35,514,404	△ 2,482
	有形固定資産	15,069,741	11,996,626	3,073,115
	特定資産	20,285,123	23,422,830	△ 3,137,707
	その他の固定資産	157,057	94,947	62,109
	流動資産	5,014,011	4,405,639	608,372
資産の部合計		40,525,933	39,920,044	605,889
負債の部	固定負債	898,062	800,515	97,547
	流動負債	1,245,542	956,346	289,196
	負債の部合計	2,143,605	1,756,861	386,743
純資産の部	基本金	37,072,460	36,968,884	103,576
	繰越収支差額	1,309,868	1,194,298	115,569
	純資産の部合計	38,382,328	38,163,182	219,145
負債及び純資産の部合計		40,525,933	39,920,044	605,889

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

○事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度（4月1日～翌年3月31日）の経常的活動（教育活動収支、教育活動外収支）及び臨時的活動（特別収支）を区分して、それぞれの事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の収支均衡の状況を明らかにするものです。また、資金収支計算書はすべての資金の動きを明らかにするものですが、事業活動収支計算書には、資金の収支を伴わない「現物寄付」、「減価償却額」、「退職給与引当金組入額」なども含めた事業活動収支の状況について把握することを目的としています。

(単位 千円)				
区分	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	4,340,100	4,395,495	△ 55,395
	手数料	72,900	64,818	8,081
	寄付金	41,000	41,903	△ 903
	経常費等補助金	466,400	604,440	△ 138,040
	付随事業収入	46,300	33,822	12,477
	雑収入	105,100	301,670	△ 196,570
	教育活動収入計	5,071,800	5,442,149	△ 370,349
	人件費	1,958,700	2,082,836	△ 124,136
	教育研究経費	2,550,200	2,492,492	57,707
	管理経費	583,000	478,681	104,318
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	5,091,900	5,054,009	37,890
教育活動収支差額		△ 20,100	388,139	△ 408,239
教育活動外収支	受取利息・配当金	195,700	216,256	△ 20,556
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	195,700	216,256	△ 20,556
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	195,700	216,256	△ 20,556
経常収支差額		175,600	604,395	△ 428,795
特別収支	資産売却差額	2,400	4,795	△ 2,395
	その他の特別収入	57,100	98,567	△ 41,467
	特別収入計	59,500	103,362	△ 43,862
	資産処分差額	199,200	357,306	△ 158,106
	その他の特別支出	0	131,306	△ 131,306
	特別支出計	199,200	488,612	△ 289,412
	特別収支差額	△ 139,700	△ 385,250	245,550
〔予備費〕		50,000		50,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 14,100	219,145	△ 233,245
基本金組入額合計		△ 124,900	△ 103,576	△ 21,323
当年度収支差額		△ 139,000	115,569	△ 254,569
前年度繰越収支差額		832,500	1,194,298	△ 361,798
基本金取崩額		0	0	0
翌年度繰越収支差額		693,500	1,309,868	△ 616,368

(参考)

事業活動収入計	5,327,000	5,761,768	△ 434,768
事業活動支出計	5,341,100	5,542,622	△ 201,522

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

【教育研究施設】

本学では、先進の研究と質の高い薬学教育を行うために充実した施設と最新の設備を有しており、2026年2月には新校舎「飛翔館」が完成しました。今後も学術研究機関としての社会的責務を確実に果たしていきます。

愛学館

本学の建学の精神「愛学躬行」の名を冠した「愛学館」。地下1階・地上7階建て建物には、講義室や実習室、研究室を完備し、自習室、食堂、売店、会議室、事務室等キャンパスの中核施設としての役割を担っています。



躬行館

愛学館同様、本学の建学の精神「愛学躬行」を掲げた「躬行館」。講義室、セミナー室、研究室を中心とした地上5階建ての講義棟と、地下1階・地上3階建ての図書館棟から成ります。1階には食堂やコンビニエンスストアも備えています。



飛翔館（2026年2月竣工）

大空へ力強く羽ばたいていくことを象徴する「飛翔」に由来した飛翔館。地上4階建ての建物には大人数の学生が共に学び合える450名収容の大講義室、先端的研究の核となる「シナジー研究施設」、学生の集いの場と学びを支える「ラーニングコモンズ」、実習室などを設置しています。



臨床薬学教育研究センター

学生が実務実習で医療現場に出向く前の4年次に基本的な薬剤師の知識・技能・態度を身につけるための教育を行う施設です。また、薬剤師を対象とした卒業実務研修を実施するなど、医療薬学に広く貢献できる施設として活用しています。



創薬科学フロンティア研究センター

文部科学省が選定する「学術フロンティア推進事業」の共同研究拠点として設立された地上4階建ての施設。難病の克服という社会的貢献度の高い研究を目指し、国内外の研究者との共同研究を行うことを目的としています。



バイオサイエンス研究センター

国内の薬学系大学における動物実験研究施設としては、規模・設備・内容共に最高水準の機能を備えています。地球環境に配慮し、先端的研究の実施が可能な機能・品質・効率に優れた地下1階・地上3階建ての施設です。



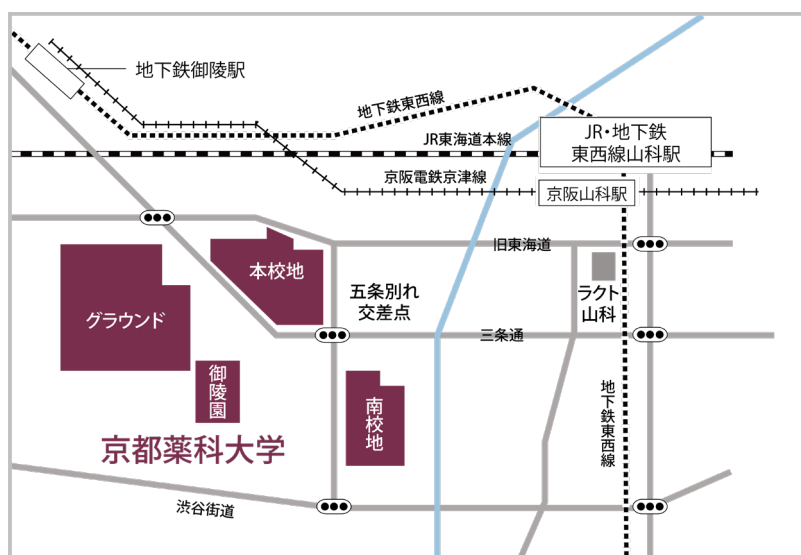
薬用植物園

伏見区日野に所在している約13,000㎡の薬用植物園では日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、染料植物などの有用植物についても展示植栽しています。薬用植物の栽培方法の検討をはじめ、植物の採集・標本化や所蔵標本の管理・データベース化などを行っており、教育・研究において広く活用されています。



創立130周年記念館

体育館としてはトレーニングルームやシャワールーム、更衣室を完備し、講堂としては中央舞台と全自動移動観覧席（512席）を備えた地上3階建ての施設。地域の災害時の避難施設としても位置づけられています。



社会を動かす薬学へ。



京都薬科大学

本校地 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5

南校地 〒607-8412 京都府京都市山科区御陵四丁野町1

TEL: 075-595-4600(代表) / FAX: 075-595-4750(代表)

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/>